

第1回熊本市本庁舎等整備の在り方に関する有識者会議 議事録(抄)
(耐震性能に関する部分)

■平田会長

(略) 私は観測地震学というかフィールドサイズモロロジーが専門でございまして、耐震の専門家ではございませんので、今後議論を専門家の方にしていただきたいと思います。ですが、地震防災の観点からいうと、これまで事務局の方からもご説明があったとおり、市役所というのは地震のときに復旧復興をするためのヘッドクォーターになる、機能の中心になる場所ですので、耐震性については万全を期してぜひ確保していただきたいというふうに思っております。(略)

■山田委員

(略) 熊本市庁舎で、防災拠点、その前の熊本地震よりもっと強い地震が来るかもしれないというのに備えるという観点での耐震性能なんですが、(略) 国土交通省で防災拠点となる建築物に関わる機能継続ガイドラインというのが出されたり、社会の中でも庁舎などにどのような性能を付与しようかというのは、時代とともに変わってきているということになるんですが、やはり今からこの時点で耐震性能というのを考えるのは、やっぱり現時点で庁舎として必要とされる耐震性能、すなわち機能維持、現時点で求められる機能維持水準を想定される大地震のときにも保つことができるかという、そういう観点で検討するということでしょうか。

■平田会長

はい、そのとおりだと思います。もちろん、残念なことに熊本地震のときには益城町や宇土市役所にしても、いくつかの自治体は市庁舎や出張所なども含めて被災してしまっていて、地震直後の応急対応をする機能が失われてしまいました。(略) やっぱり人は生きていく必要がございますので、水や、最低限度の食糧がないとやっぱり機能は維持できませんから、生命、身体の安全を確保するということが第一ですが、その第二としては、市民の復旧復興を支えるという観点からは機能を維持するということが非常に重要だというふうに思います。

■加藤委員

今の山田先生の話とも重なるんですが、災害を乗り越えるためには市役所庁舎の防災拠点機能が必要だってこう言われるとそりゃそうだなと思うんですが、庁舎に災害を乗り越えるために必要な、求められている機能というのを、やっぱりもう少し丁寧に見る必要があるかなと思うんですね。直後の応急対応での様々な意思決定も必要ですし、その後、長く続く被災者支援とか、復旧支援のための意思決定、あるいは様々な支援活動の拠点として機能すると思うんですね。その辺りを熊本地震の経験も踏まえつつ、少し丁寧にみていった中で、庁舎に求められる機能とは何かというのを追求していくのがいいのかなと思いました。

■平田会長

(略) ただいま、山田委員、加藤委員からのご発言がございましたが、こういうことについて予め整理をして議論をしていったほうがよろしいかなと思います。それで本会議といたしましては、本庁舎の耐震安全性については、建築基準法の水準というのに止まらず、防災拠点施設としての機能維持を目指す施設という観点から議論を進めさせていただきたいので、そういう認識をこの会議としては共有化したいと思いますが、委員の皆様、よろしいでしょうか。

■他の委員

(異議なしの意思表示)